

優
秀
賞

ジェンダーについて考える

中札内中学校一年 加藤 美陽

皆さんはジェンダーと言う言葉を聞いたことがありますか？

と言う質問に対し、ネット調査では56%の人が「聞いたことはあるが自信を持って説明出来ない」と答えた。私ももちろんこの答えだ。私の身近なジェンダーの話題とえば、最近メディアで見聞きする「制服のジェンダーレス化」である。

男子は学ラン、女子はスカートと言う考えをなくし、自分の着たいようにスカートもパンツも選べるシステムが全国に広がって来ている。なので私は、男性が女性の格好をしたり、女性が男性の格好をすることがジェンダーレスなのか？と考えた。

しかし調べた結果はまったくちがう答えだった。

ジェンダーとは、日本語では「社会的性別」と訳される。

たとえば、「男の子は青、女の子はピンク」

「お父さんは会社で働いて、お母さんは家で家事をする」というように、男女の違いによって、周りの人が無意識に抱くイメージや役割分担がある。

このような身体的な性別に対して、社会の中で、「男性らしい」あるいは「女性らしい」とされている役割や行動、考え方や見た目などがあることを、社会的性別≡ジェンダーと言うことがわかった。

私のように、ジェンダーと言う言葉は知っているものの、詳しく説明することが出来る人が少ないのが今の日本の現状だ。

2020年のジェンダーギャップ指数（男女格差の少

ない国）を調べて見ると、1位がアイスラン

ド、2位ノルウェーとなり、日本は153国中121位と

先進国の中で最低レベルと言う結果だったのも、納得の結果と言えるのではないだろうか。

私は将来建築関係の仕事をしたいと思っている。建築の世界は昔から男性が多く、その中で母は建築士として働き、その時の話を聞く機会

があるが「女が出来るのか」「だから女は細かいんだ」と良く言われたそうだ。

ジェンダーレスを進めるにあたって思うのは、全てを「レス」には出来ないのではないか。と言う部分だ。

母が言われた言葉にもあるように、女性は細かい事にも気付きやすい。

それと同時に、女性は男性よりも筋力等では劣るだろう。

しかし、それを踏まえてのジェンダーレスなのではないだろうか。

出来る人が出来るを手助けし、同じ環境で同じように生きていこう。って事なのではないだろうか。

同じ資格を持った建築士なのにもかかわらず、「男だから」「女だから」を言われる理由はどこにあるのだろうか？

細かい事に気付けたら、その分安全が確保されるのではないだろうか？

古き良き日本の文化があってこそその日本なのはわかるが、海外の文化を取り入れてきている今、まずはジェンダーの意味を理解し、全国民が周知していく事が必要だと思う。

そうする事で「自分らしく生きる事が出来る

社会」が出来るのではないだろうか。

服装の見た目だけではなく、考え方や行動も、

男女で分けず、「それぞれの個性」として受け入れていく事が大事なのではと思う。

皆が生きやすい世の中になるように。